

4. 婦人防火クラブ会長活動報告

おにぎり150ヶと9,000ヶ大災害時の支援活動とは

平成16年11月6日

蒲郡市女性防火クラブ会長 小林 春代

暑く長かった今年の夏は、異例の台風発生数と日本列島縦なめのコースに苦しめられました。その爪跡も癒えぬ間に新潟中越地震が地面も人の心も揺さぶりました。

「新潟で震度6強」のニュースを聞いたのは、台風23号のため昨日までバス代行運転だった予讃線を、徐行しながらの列車で参加した、「日本女性会議2004松山」開催地の四国松山市のホテル2泊目10月23日の夜でした。

7月の福井豪雨時に美山町蔵作（くらつくり）地区に、今回の地震では小千谷市へ、それぞれ日本防火協会から愛知県婦人消防クラブ事務局である愛知県消防協会へ、近隣県同様2～3名の炊き出し支援要請がありました。

福井県美山町蔵作地区は全戸数46戸中37戸が被災されたという、足羽川最上流の川沿いの地域です。蔵作農事集会場での炊き出し支援活動に、愛知県から3人同時参加しました。地元女性リーダーの下、連日詰めておられた福井県女性防火クラブ会長共々1回の食事、おにぎり150ヶ（他にパック詰めぐ飯あり）、救援物資の冷凍いか・肉、地元で水害をまぬがれた野菜等を使ってのお惣菜づくり。遠く讃岐から支援のうどんを茹でたりと家庭的な炊き出しのお手伝い、調理の品数、味付け、等々すべて任せられました。「かぼちゃがもう少しあるといいね。」の一言に、「うちの畑から取ってくるわ。」とお一人が飛んで行かれます。両手でかぼちゃを抱えてこられ「お願いします。」プロパンガスでの煮炊きでした。

新潟での支援は、小千谷市役所の駐車場で、朝7時からひたすらおにぎり作りに専念です。総数9,000ヶ。11月1日の14,000ヶをピークに前日まで13,000ヶ作ったそうです。自衛隊員が専用車で炊飯をします。リーダー役の市職員、石川県防火クラブ引率の消防職員、日本防火協会部長等で1テーブル。具である梅干・漬物を切ることと握ったものを配達場所人数に合わせ、袋に詰めるためのテーブルです。4テーブルがにぎり隊です。市役所職員と地元協力者の4人をリーダーに、各県からの防火クラブ員を含むボランティア6人ほどで1テーブル、活動中お互い話声も出さず、あくまでも歯車のひとつとしての役割です。でも固くなく、やわらか過ぎず喜んでいただける握り具合に心を込めて。

市職員さんは、連日同じ場所の担当として早朝から出られるようです。昨日も帰宅したら震度5強の余震でダンスの上の小物が倒れていたと話されていました。仕事途中で、休校中の子どもさんが、お母さんの顔を覗きにみえました。避難所へ行くほどではないところの人々は、外部から見た時、「良かったですね。」の一言で片付けられますが、そこにも日常生活とは違う犠牲が払われているのだと感じました。このようなことは平常時でも、考えさせられる問題ですが。

愛知県からのもう1人の参加者（常沢愛知県婦人消防クラブ副会長）と入れ替わりに出かけた新潟への途中、11月4日の午前中にも震度5強の余震があり、交通機関は未復旧の所へ加え先行列車の人身事故で、運休、遅延で9時間余でやっと柏崎駅到着。明朝小千谷市まで車で約1時間、途中至る所で山崩れ、きれいに紅葉している雑木が、滑り落ちた赤土にしがみついていた。

県外からの支援者はひと先ず11月5日で活動中止。地元弁当業者が復活できれば、業者利用に切り替えます。避難所でリーダーだった人が職場復帰できれば、その避難所の食事一式自衛隊に委託というように、支援活動はあくまでも、自立支援に徹します。刻々と替わる時間経過状況を的確に捉え、それに素直に従う柔軟性がないと、被災地に非常な迷惑をかけてしまうという事実を目の当たりにしました。前後をカットして、視聴者受けだけを意識した報道には、被災地の自治体や住民の人達にずいぶん迷惑が掛かっているのではと思われまます。

小千谷市救援物資保管場所（倉庫らしき建物と大型テント）を車窓から垣間見ました。協定を結んでいる企業、県、市からの物資が整然と積み立てられていました。現在の日本は物資面では、交通機関や道路さえ運行可能ならば先ず大丈夫。今回でも孤立してしまった地域や、発災後災害が進行する場所以

外は、時間と共に救援の手は届く。ただ、蒲郡市の場合、他県、他市町村とどのような協定を結んでいるのでしょうか。市が福井へも新潟へも、救援にいったという話は聞いていないような気がします。たまたま一企業の炊き出し支援隊に職員が2名だけ同行すると耳にしましたが。

蒲郡市長の口癖でもある「自分のことは自分で」は当然です。そのために市民がもっと被災者になりうることを現実的に捉えられるような、市民育ての責任が行政にはあるのではないのでしょうか。また、発災し、被災地になった場合、職員だけが「忙しくて」とことば荒く、かたくなな態度をとらなくてもよいように、関係機関の仕事に協力できる市民リーダーを育てる必要があると考えます。小千谷市でも「職員さんも疲れてきたじゃないの、こちらの出方もあるし。」という前日から来られていた他県の支援者の声を聞きました。

市民のみなさんは、住環境の耐震化、3日間の水と7日間の食料、そして緊急時の心構えの準備が必要だと思います。先の美山町の初老の男性がおっしゃいました。「5年前に100年ぶりの大雨に遭い、また200年ぶりの水害に遭った。今度はここを逃げ出そうと思ったが、見も知らずのボランティアさんが大きな岩と泥を運び出してくれた。2階に電気が点いた。もう1度ここで頑張ろうと思った。一人の犠牲者も出さなかった大変仲の良いこの部落で」と。また、ご自身が地震・津波被災経験のある防火協会の部長は、「今の大半の人たちは、緊急時を乗り切る意識が甘い。非難はあるが、時として組織としては個人的我がまは、通してはならない時がある。」と。

なお、今回、出かける前の私に多くの方が、被災地の人々へ何らかの力になりたいとご自分の心情をお伝えくださいました。私はやさしさに囲まれていることの再認識ができ、現地で、身近で幾度となく鳥肌の立つ思いと涙にじむ思いを体験いたしました。

神戸の都市型災害、福井の水害、今回の中越地震と、災害の形態、被害状況、市民意識等、それぞれの違いを尊重した支援を考えないと、支援が支援でなくなる場合があります。義援金支援も本当に、支援して下さった人の気持ちを活かされる経路を考える必要があると思います。又、ボランティアの基本と言われる「自発性」「継続性」は一時的災害ボランティアには通用しないことがあるのだと、コーディネーターとしての幅の広さを学び、私には宝物がまた、ひとつ増えました。

ご多用の中、帰り際には小千谷市女性防火クラブ担当職員さんが、見送りに駆けつけてくださいました。小千谷市女性防火クラブ員さんはじめ、日本各地の被災者のみなさんが、寒さを前に一日も早く、安心できる生活に戻られますよう心よりお祈り申し上げます。

目次

[1. 少年少女消防クラブフレンドシップ2005の開催](#)

[2. 全国婦人防火連合会（総会）（その2）](#)

[3. 平成16年度自主防災組織リーダー研修会（広島県）](#)

4. 婦人防火クラブ会長活動報告

[5. 平成16年度 民間防災組織の状況](#)

[6. 地方からの便り](#)

[7. あなたも危険物取扱者・消防設備士](#)

[8. 日本防火協会からのお知らせ](#)